

中庭に昔の自然を ～メダカやホタルのすむビオトープ～

小田原市立報徳小学校

1. 実践の内容

本校のビオトープは開校20周年記念事業として、校舎南側の地下水を水源とし、「報徳ランドの夢を語る会」の方々の労により造園したものである。「開発の進む富水・桜井地区に、自然豊かなランドを」という願いが込められている。児童のみならず、来校する保護者の方々にも、癒しの空間となっている。10年を経て、自然と安全のバランスから、人の手を入れたビオトープのあり様を模索している。

2. 実践のねらい

- ・子どもたちが植物や生き物などのふれあいを通して、楽しく豊かな学校生活が送れる環境づくりをする。
- ・子どもたちが土や水の流れや生き物との関わりを通して、自然事象への興味・関心をもつ契機となるようにし、豊かな感性を養う。

3. 具体的な活動

報徳ランドにおける子どもたちの関わり(教科、総合的な学習の時間、委員会など)

- ・植物、昆虫などとの関わり(生活科)・・・1・2年生
- ・昆虫の観察(理科)・・・・・・・・3年生
- ・季節ごとの生き物の移り変わり(理科)・・・4年生
- ・ミニ田んぼでの田植え、稲刈り(理科、社会)・・・・5年生
- ・メダカの世話、繁殖(理科)・・・・5・6年生、自然環境委員会
- ・ホタルの世話、繁殖・・・・・・・・自然環境委員会
- ・報徳ランドの保護・広報活動・・・・自然環境委員会



掘り抜き井戸

深さ: 53m
自噴量: 毎分30リットル
平成6年10月3日に掘り始め、11月8日に完成した。
ここが報徳ランドの源流であり、夏の水は冷たく、冬は温かく感じる。



大池

このビオトープの中心となる場所である。地元のクロメダカが放流され、メダカの学校となっている。



ミニたんぼ

ランドからの水を引いて、水田にしている。また、メダカ達がのんびり過ごせる場所としても大切な場所になっている。



コイの池

井戸から流れてきた水の終点で、コイやナマズがのんびりと過ごしている。

4. 実践の留意点

- ・地域の人々とのかかわりを大切に考えていく。
- ・環境ボランティアの方と連絡を取り合いながら活動していく。
- ・子どもたちが利用しやすいよう、環境を整備していく。
- ・ザリガニについては積極的に除去していく。